

幸逢四海爲家日 處々風烟似故郷

春風にまたおひそふる若草の色や霞にまがふむさし野

〔萬葉集十四〕武藏野爾宇良敵可多也麻左氏爾毛乃良奴伎美我名宇良爾低爾家里

武藏野乃乎具奇我吉藝志多知和可禮伊爾之與比欲利世呂爾安波奈布與

古非思家波素氏毛布良武乎牟射志野乃宇家良我波奈乃伊呂爾豆奈由米

或本歌曰伊可爾思氏古非波可伊毛爾武藏野乃宇家良我波奈乃伊呂爾低受安良牟

武藏野乃久佐波母呂武吉可毛可久母伎美我麻爾末爾吾者余利爾思乎

伊利麻治能於保屋我波良能伊波爲都良比可婆奴流奴流和爾奈多要會禰

和我世故乎安村可母伊波武牟射志野乃宇家良我波奈乃登吉奈伎母能乎

右九首〇三武藏國歌

〔古今和歌集十五〕題玄らず

秋風の吹とふきぬるむさし野はなへて草葉の色かはりけり

〔續古今和歌集四〕建保三年内裏の歌合に

むさし野は月の入べき嶺もなしお花が末にかゝるしら雲

〔慕景集〕氷川社奉納の和歌す、められ侍りて残雪といふことをよめる、

おいらくの身をつみて社武藏野の草にいつまで残る白雪

〔淡海温故錄二〕蒲生野 是ヲ宇禰野共又布引山共云郡ノ名故ニ蒲生野ト云又高低ノ谷峯ウチ

ノ如キ故宇禰野トハ云カ又昔蒲生ノ長者布ヲ晒シテ干シタル故布引ト云由也

〔日本書紀二十七〕七年五月五日天皇縱稿於蒲生野于時大皇弟武諸王内臣鎌原及群臣皆悉

從焉

近江國  
宇禰野

よみ人玄らず

大納言通方